

3 総 括

- (1) 与那覇湾は静かな内湾を形成していて、安定した漁場であるが干潟よりなるため、本県の他の内湾例えば中城湾や羽地内海のような活発な漁業生産の場とはなり得ていないようである。
- (2) 湾内には藻場や有用底生々物は少ないが湾口部から湾外にかけては大規模なアジモ場とクチベニツキガイの生育量があり、またクルマエビ類の好漁場となっている。これは、栄養塩類及び餌料が与那覇湾によって供給されることが栄養塩およびプランクトンの調査から推定される。
- (3) 卵稚仔及びプランクトンの調査から、餌料プランクトンの他、有用動物の幼生が湾内で多くみられ、これらの産卵場および生育場としての役割が大きく、またこのことによって県下では大規模な二枚貝及びエビ類の好漁場が形成されているように推定される。
- (4) 漁獲物の調査から湾内ではアイゴ、ボラ、サヨリ、クロダイ、アオリイカ、ガザミが多く漁獲されていることが確かめられた。これらの結果は卵稚仔及びプランクトンの調査結果と一致した。
- (5) 湾奥の水路周辺にはクビレツタが多く生育する。本種は県下では西表島大原で採集されたのを除いて他の内湾ではまだ確認されていないものであり、有用藻類資源としてユニークな位置をしめる。
- (6) 湾外のアジモ場とその周辺部はオキナワモズクの代表的な産地の一つである。